

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和元年 7月17日
(80号)

中之島

[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局



人間学講座
第64講
「本当のことを使れば
生き方が変わる」
池田豊治先生

■『塩狩峠』にある原占

愛媛の故郷を離れて、私は十五歳で自衛隊に入りました。

主人公は二三歳の鉄道員の信夫です。信夫は北海道の鉄道会社に勤め、結婚の予定も控えていました。あるとき信夫の乗っている列車が塩狩峠の頂上に差しかかるうとするとき、車両の連結が外れる事故が起きます。彼は手動のブレーキをかけるが止まらない。急な坂が迫つてくるがそこまで行つてしまふと、乗客もろとも谷底に落ちてしまう。そのとき彼はどうしたか。すぐ飛び降りた。そこで人為的な助けをするのか、軍事的な戦いをするのか。人為的な助け＝レスキューなら、お客様を助けるために声を張り上げて「飛び降りてください！」との呼びかけになります。しかしそれでは全員助けることはできない、と信夫は瞬時に判断したのです。

そこで彼は貨車と貨車の車輪の間に自分の身体を杭として投げ込んだのです。列車は見事に止まり、乗客は全員助かりました。信夫は即死です。ここに

仕事には2種類あるかと思いま。自分のための仕事と、自分のためでもあるが社会のための仕事。私は当時社会の仕事がしたいという思いで自衛隊に入ったのですが、外出の折に人々に囲まれて「税金泥棒」と言われたのです。大変なショックでした。その後防衛大に入学し、たくさんの中を読みました。自衛官は初めに「命を懸けて国民を守ります」と宣誓します。そして任務の達成は自分一人の命だけでなく後場で最も参考になつた本とは、実話を元に書かれた曾野綾子著の『塩狩峠』でした。

■ 地下鉄サリン事件の真実

は私の原点があります。それは「人は何のために生きるか」。信夫くんは若くして亡くなりましたが、私は逆に良い人生だったと思うのです。

臭事件が起こつた。両方のサンプルを化学部隊に分析させたところ、それら土壤のサリンの成分が一致した。化学物質は指紋と一緒に、分析結果が一致したということは、松本サリン事件はオウムの犯行であることが我々には判つていました。このときにオウムに突入しておれば地下鉄サリン事件は起こらなかつたのですが、警察から待つたがかかり、捜査に入れなかつたのです。

■ 大和は愛の国

会議終了後、警察の総指揮官の「機動隊員50人から150人が死ぬかも知れない。」

旧ソ連軍のヘリコプター、その他武器、弾薬がある。もし、彼らが抵抗し、彼らの本来の目的である「日本壊滅」を図つたらどうなるか。何よりも、ドラム缶をヘリに積んで、東京の繁華街に撒けば、1本で100万人が死ぬことになります。

一九九五年三月地下鉄サリン事件が起こります。その被害者の中に私と共にオウムのサティアンの強制捜査に同行するはずだった者もおります。実は地下鉄サリン事件は、捜査員を狙った個人テロです。彼が入院したため、私は自衛官として一人で第7サティアンに入ることになりました。警察では強制捜査に踏み切るための作戦会議が行なわれました。サティアンの中には、ドラム缶700本の薬剤、

■ 大和は愛の国

世界を牛耳る支配者が、日本と北朝鮮をうまく使って、お金を搾り取る体制を作り、日本民族をつぶそ
うとしています。はびこる社会毒は「化学物質」
「放射線」「遺伝子組換食材」「電磁波」。他国で
は危険なため禁止されているものや、国民を守るた
めの決まりもありますが、日本はそういう情報は
知らされておらず、アメリカで禁止されている薬品
も使われている実態です。このままで、DNAが
破壊され、三大で子孫が消えてしまいかねないです。
支配者にとって、日本は目覚めさせてないけない国。
日本人が変わると世界が変わることにつながるから
です。滅びる道と永遠に続く道があります。本来地
球は永遠に続く一つの世界です。地球は輪廻転生を
通じて、個々の魂が進化する大自然の貴重な星です。
私達の国は「大和（やまと）」と書きますが、そ
れは愛の国の原点、神の民ということ。だからこそ
支配者は日本のDNAを潰したいと思うのです。い
ま世界はエゴの人々が支配している。いつたんこれ
を止めねばならない。止めるには天変地異があるか
もしれません。神話には「世界がエゴの社会となつ
て滅びる前に、一度泥の世界にする。その前に東の
島の愛の民が泥の世界へ派遣され、神々とともに使
える魂を救いながら本当の愛の世界を再興する」と
あります。一度泥の海のようになつた中から、もう
一度「愛の国」を作っていく。この先は泥の海にな
らうとも、それもまた人類を駄目にしないための計
画のひとつなのです。

□ 講師 池田整治先生 『**△グループ討議**』

「本当のことを知れば生き方が変わる」

【Aグループ】

① 日本の皇室には正しい歴史が伝わっている。

② 『塩狩峠』今このよう生き方ができたら良いと思う。

③ 戦後日本人はダメだ、との洗脳を受ける

【Bグループ】

① 「塩狩峠」から自分の人生・生き方と照らし合わした。

② 日本人の愛の広さ・憎しみでは戦えない、愛のためには戦える。

③ 『塩狩峠』＝輪廻転生のこと？

【Cグループ】

① 『塩狩峠』

② パラオー親日国

③ 世界はエゴの人々が支配している

【Dグループ】

① パラオー親日国

② 愛のためには戦える。

③ 『塩狩峠』に日本人の生き方の原点を見る。

【Eグループ】

① 隊長の為に死ぬという部下がいないと仕事にならない。

② 『塩狩峠』キリスト教・自己犠牲・公のために死ねる。

③ 真実を知つたところで「何に使うか」が大切。



郊外学習参加記 『湊川神社と楠木正成』

第七期の郊外学習は神戸の湊川神社でした。沢山の人達が参加してくださいました。ありがとうございます。

湊川神社は忠誠と正義とを以て生涯を貫いた楠木正成を後世に伝えるため、明治天皇が神社を創建するよう命じ、正成の御墓所と殉節地を含む場所を境内地と定め明治五年に鎮座した神社です。

正成公は、三徳兼備の日本歴史上最大の武将です。三徳とは、天下の達徳とされる智・仁・勇で、この理想を兼ね備え古今これほど偉大な死に様をした者はいません。

墓は誠忠の正成公を慕う人々によつて、「七生滅賊」を誓つて殉節された地より南東百弓離れた地に當まれ、後に豊臣秀吉によつて免租地となります。この地を治めた

青山幸利は塚印として梅松を植栽し五輪供養塔を建立。そして元禄五年水戸光圀が「嗚呼忠臣楠子の墓」と自らが記した碑を立てます。碑の裏面には、明の遺臣朱舜水による正成公贊文を刻ませています。

この名文は多くの人々を感動させ、正成公の御盛徳天下に広く知れ渡り、人々は皆こぞつて墓所に参詣します。頼山陽・真木保臣・三条実美・坂本龍馬・高杉晋作・西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允・伊藤博文等々明治維新の前後には志士達が墓前に詣で報國の至誠を誓い国事に奔走しています。特に吉田松陰は四度参詣しこの拓本を正成公贊文の意味は次の通りです。

人生に忠孝あるは、自然界に日月あるにひとしい、日

月無ければ、天下は闇である如く、人生もし忠孝の道徳を失えば、世の中は乱賊相次ぐであろう。聞く所によれば楠木正成は、忠勇節烈、國士無双、戦術に秀で、よく士心を得、中興の大事を成しとげて、皇室に貢献せられたが、前門の狼を退治すれば、後門の虎迫り、如何ともする能わざるを見て、予にあくまで大義を守り、朝廷を守護せよと教訓を残して、自らは從容として討死したが、父母兄弟、代々忠孝の道徳を全うした事、目ざましいと云わねばならぬ。

忠孝の二つは、道徳の基本です。この二つに共通して源泉となるものは恩義の情です。子にして親の恩を感じる時、その人は孝子となり、臣にして君の恩を思う時、

その人は忠臣となります。この道徳さへあれば家も国も安泰で有り、これを失えば家も亂れ國も亡びるのです。碑文の作者朱舜水は清の為に滅ぼされた明の遺臣です。自分の生まれた土地には革命がしきりに起つて、國家の生命も短く母國明も滅びてしましました。之に反して日本は建国以来万世一系の天子を仰いでいるのを見て感概無量であつた事が想像されます。

日本はいま「第五の国難」を迎えていると言われています。第一の国難は「元寇」の時。第二の国難は「幕末から明治維新」。第三の国難は「日露戦争」。第四の国難は「大東亜戦争前後」です。四つの国難は相手がハッキリしていて分かり易いのですが、現在の第五の国難の相手とは、「日本人自身」です。日本人の内側から崩れしていく危機、すなわち「魂の危機」なのです。過去のどの危機よりも深刻です。我が国始まって以来の危機と言つてもよいでしょう。この魂という目に見えない危機に瀕しているのです。

今こそ日本人の美しい心と魂を蘇らせねばいけません。日本を学び、日本を体験し、日本人のDNAのスイッチをオレンジにして誇るべき日本を発信していきましょう。この時代にこの日本に生まれてきた私達一人ひとりの重きな使命を果たすべく、眠っている日本人の美しい心と魂のスイッチをオンにすることをもつて知性、品性、靈性を高めていく自己改革の学びの場として、私は人間学塾中之島で共に学んでいきたいと思つていています。

今後共よろしくお願ひいたします。

宮武清寛



碑面の「鶴原忠臣楠子之墓は、徳川光圀の歌碑。碑は朱舜水作。いわゆる精公碑。碑文は、正成公の墓の第1621号のものである。全文は、つづきのとおり。」



「湊川神社にて」 中村 美智留

「楠公さん」と地元住民に親しみをこめて呼ぶ湊川神社。神戸つ子の私の初詣、七五三参り、子どもたちの宮参りも全てここで湊川神社だった。神戸駅北側にゆつたりとした広い敷地を持ち、初詣には多くの参拝客と屋台で賑わうその神社については楠木正成という武士が祀られている、という知識しか持つていなかつた。そして今回人間学塾中之島の校外学習で、殉節地や墓所、徳川光圀像巡り、権宮司のお話を伺つて湊川神社と日本の歴史の大きな関わりを知ることが出来た。

まず最初に驚いたのは、楠木正成が第二回戦終戦までは、正義と忠誠を貫くこと。第二に、それ故に多くの高名な財界人、政治家たちがここを訪れ灯籠を立てたり寄付をしていていたこと。また幕末の志士たちが何度も参拝に訪れ、庶民にとつてもこの湊川神社が明治天皇が創建し、以降神戸の街の繁栄の中心地であつたこと。水族館もあつたというのは驚きだ。

神戸の地で暮らし神戸を愛し、その繁栄を願つてゐる私としては、これまで湊川神社いや楠公さんの正確な歴史を深く知らなかつた事に衝撃を受け少し悲しかつた。何故私は湊川神社と楠木正成について学んでこなかつたか。その理由として、歴史書は必ずしも眞実ではないから。特に古い時代のこと。

ヒーローとして日本国民から絶大な人気だったこと。第三に、それが故に多くの高名な財界人、政治家たちがここを訪れ灯籠を立てたり寄付をしていていたこと。また幕末の志士たちはかなり困難である。一部教科書や私が最近読んだ「日本国紀」には大悪党楠木正成と書かれている。そして一番大きな原因は第二次世界大戦以降、日本人が自國や国民を誇りに思わないような教育を受けたから。戦前の日本人なら誰でも知つていた楠木正成ストーリーや、皇居になぜ銅像があるのか。今回の学びをきっかけに地元の遺産を後輩たちや他地域の方に誇りを持って伝えられるようにもう一度勉強し直して、この素晴らしい歴史を持つた湊川神社を大切に伝えていきたいと思う。



大楠公御殉節地



湊川神社境内見学



講話 西原秀樹権宮司



△人間学塾・中之島

■ 第七期「卒塾式」

* 日時 令和元年 8月 17日 (第3土曜日)

* 場所 大阪大学中之島センター 10F

大阪市北区中之島四丁目五三

* 日程 第一部「卒塾式」

第二部「交流会」

◆第七期「卒塾文集」寄稿の提出は、
お済でしようか??

◆第八期への継続は、
お決めくださいましたか??

人間学塾・中之島

△お薦め書籍

まんが『てんびんの詩』

竹本幸之祐 原作 大野志信(漫画)

出版社 PHP研究所
頒価 一六二〇円(税込)
ISBN-13 978-4569940482



△芳信抄

柴田久美子様(岡山市津高)

「中之島ニュース」ありがとうございます。映画「みとりし」が完成、9月13日より有楽町スバル座で公開されます。親孝行をテーマに創りました。武士道の本質であります。

坂田道信様(広島県安芸高田市)

鍵山秀三郎先生が制作・企画・資金提供を手がけ映像化された近江商人の物語を、漫画化されました。時は大正末期。大商家の長男・大作は、優秀な成績で小学校を卒業。祝いの言葉とともに父から贈られた包みの中身は、鍋の蓋だった。父は、明日からそれを行商して売つてこいと言う。売れなければ、店を継がせることはできないと。何不自由なく育ってきた少年に初めて与えられた試練だった。途方に暮れながらも、母親も、親戚も、知人も頼れない。鍋蓋は売れぬまま、3か月が過ぎる。苦難の末、ようやく商人の、そして商いの魂を知った。涙の先に大作が見たものは?

お決めくださいましたか??

△「淀川掃除に学ぶ会」 短信 志村隆夫塾生

七月七日、朝八時から約25名が参りました。

天気が良く日陰が無いので、とても暑い一時間半でした。成果はゴミ袋13個と空き缶、ペットボトルなど2個でした。お掃除の始めに、代表から天分塾にも参加されていました、東様がご逝去されたとの報告がありました。東様は掃除の会にはとても貢献して頂きました。約10年間にわたり毎回お茶やコーヒー・パン・果物などを用意して頂きました。

ご冥福をお祈りして、全員で感謝ご冥福をお祈りして、黙祷を捧げました。



「武士」と「愛すること」は結びつかないのではないかと、これが私の固定観念としてありました。「十七条憲法」や「御成敗式目」にも武士道は生きている、改めて日本民族のDNAを認識した次第です。寺田一清先生の不二登拜は、不尽先生に会いに行かれりして、黙祷を捧げました。

大出雅一様(埼玉県川越市)

「武士道とは愛することと見つけたり」石川真理子先生の講話録ありがたく拝読致しました。「十七条憲法」「御成敗式目」を原点とした日本人の精神に還ることが求められていますね。

加藤秀夫様(宮城県名取市)

「武士道とは愛することと見つけたり」石川真理子先生の講話録ありがたく拝読致しました。「十七条憲法」「御成敗式目」を原点とした日本人の精神に還ることが求められていますね。

桂誠司様(愛媛県四国中央市)

新渡戸稻造著の『武士道』は、何度も読みました。でも、まだ僕には難解です。寺田先生の仰る「読み込む」ほどには至っておりません。石川真理子先生のお話を頭において、また読んでみます。

坂部智一様(愛知県豊田市)

石川真理子先生の抄録拝読致しました。武士道の原点、日本人の原点が、「十七条憲法」にあること、新しく教えて頂きました。日本人の心の誇りと思い実践します。武士の始まりと、終わりに興味が湧きましたし、鎌倉時代の「御成敗式目」教科書で読んだ記憶ぐらいです。人格を求められていること、教えて頂きました。

稻垣孝志様(愛知県春日井市)

四月我那霸産のお話しさに引き込まれました。テレビ・新聞ばかり見ていると大きく間違うなど感じます。私が本物を見る目をもたなければ!!

鍵山秀三郎先生からは、「中之島ニュース」をお読みくださいつていること、体調すぐれないなかに毎回お電話をくださり、感動と感謝一杯です。早期のご回復を願っております!!(眞)